

令和8年度

介護福祉学科
シラバス

群馬パース大学福祉専門学校

科目名	1. 人間の尊厳と自立		
授業形態・単位数	講義30時間・2単位	開講学年	1学年 前期
担当講師	坂井 勉	担当講師の実務経験の有無	有・無
担当講師の実務経験	児童福祉関連施設にて35年実務経験を行った経験を活かし、子ども家庭福祉に関する制度等を指導する。		
評価基準	筆記試験(70%) 授業態度、提出物(30%)		
目標	1 尊厳の保持と自立について基本となる考え方を理解する。 2 個々人の権利としての人権を理解した上で、権利侵害や権利擁護について理解する。 3 介護における自立支援の実際の内容の理解を深める。		
回	講義内容	方法	
1	<u>人間の尊厳と自立の意義</u> (尊厳とは、自立とは、授業概要説明)	講義	
2	<u>人間の尊厳について考える①</u>	講義・演習	
3	<u>人間の尊厳について考える②</u> (人権思想の潮流、人権思想の具現化)	講義	
4	<u>人間の尊厳について考える③</u> (日本における諸規定)	講義	
5	<u>人間の尊厳について考える④</u> (社会福祉領域での福祉理念の変遷)	講義	
6	<u>人間の尊厳と自立の意義</u> (尊厳とは、自立とは、まとめ)	講義・演習	
7	<u>人権、尊厳と自立に関する歴史的経過と変遷</u>	講義	
8	<u>福祉関係の法律の理念・目的・内容①</u>	講義	
9	<u>福祉関係の法律の理念・目的・内容②</u>	講義	
10	<u>福祉関係の法律の理念・目的・内容③</u>	講義	
11	<u>介護における自立支援①</u> (自立の概念と自立)	講義	
12	<u>介護における自立支援②</u> (自立支援のめざすもの)	講義・演習	
13	<u>介護における自立支援③</u> (依存と選択)	講義	
14	<u>介護における自立支援④</u> (尊厳を守る介護と自立支援)	講義・演習	
15	テスト・まとめ	テスト・講義	
テキスト・参考書	最新・介護福祉士養成講座1 人間の理解 中央法規		

科目名		2. 人間関係とコミュニケーション	
授業形態・単位数	講義30時間・2単位	開講学年	1学年 後期
担当講師	魚屋 真佐江	担当講師の実務経験の有無	有・無
担当講師の実務経験	社会福祉士として障害者施設や高齢者施設において相談員の経験あり。様々な背景を抱える方とのラポール形成に努力してきた経験から、対人援助者として必要なスキルを伝える		
評価基準	筆記試験(50%) 授業態度・提出物(50%)		
目標	1. 対人援助に必要な人間の関係性を理解する。 2. コミュニケーションの意義・技法等について学ぶ 3. 対人援助関係を形成するためのコミュニケーションの基礎として、受容・共感・傾聴といった基本的態度や援助関係のための原則について学ぶ。 4. チームで働くために必要となる組織におけるコミュニケーションの特徴や組織内で求められているコミュニケーションについて学ぶ。		
回	講義内容	方法	
1	人間と人間関係①(自己覚知、他者理解)	講義・演習	
2	人間と人間関係②(発達心理学からみた人間関係)	講義・演習	
3	人間と人間関係③(社会心理学からみた人間関係)	講義・演習	
4	人間と人間関係④(人間関係とストレス)	講義・演習	
5	組織におけるコミュニケーション①(組織の条件とコミュニケーションの特徴、組織における情報の流れ)	講義・演習	
6	組織におけるコミュニケーション②(組織において求められるコミュニケーション)	講義・演習	
7	対人援助とコミュニケーション①(コミュニケーションの技法・バイステックの7原則)	講義・演習	
8	対人援助とコミュニケーション②(苦手な人間関係 対人距離・心理的距離)【提出①】	講義・演習	
9	対人援助とコミュニケーション③(アンガーマネジメント)【提出②】	講義・演習	
10	対人援助とコミュニケーション④(自己肯定感)【提出③】	講義・演習	
11	対人援助とコミュニケーション⑤(クレーム対応 受容・傾聴・共感)【提出④】	講義・演習	
12	対人援助とコミュニケーション⑥(道具を用いた言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション)	講義・演習	
13	対人援助とコミュニケーション⑦(終末期の方とのコミュニケーション エリザベス・キューブラー=ロス『死ぬ瞬間』と介護実践)【提出⑤】	講義・演習	
14	まとめ 国家試験対策	講義・演習	
15	定期試験	試験	
テキスト・参考書	最新・介護福祉士養成講座1 人間の理解 中央法規		

科目名		3. チームマネジメント		
授業形態・単位数	講義30時間（2単位）	開講学年	2年生・後期	
担当講師	富澤 伸也	担当講師の実務経験の有無	○有・無	
担当講師の実務経験	訪問介護やデイサービス、老人保健施設や特別養護老人ホーム等の管理職として勤務している経験から、チームマネジメントに必要な基礎的知識を指導する。			
評価基準	筆記試験により70%、授業態度・課題提出により30%として合計100%で評価する			
目標	<p>1. 介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎的知識を理解し、チームで働くための能力を養う。</p> <p>2. 介護実践をマネジメントするために必要な組織運営や人材育成、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップの基本を理解する。</p>			
回	講義内容		方法	
1	<u>介護実践におけるチームマネジメントの意義（1）</u>		講義	
2	<u>介護実践におけるチームマネジメントの意義（2）</u>		講義	
3	<u>介護実践におけるチームマネジメントの意義（3）</u>		講義・演習	
4	<u>ケアを展開するためのチームマネジメント（1）</u>		講義	
5	<u>ケアを展開するためのチームマネジメント（2）</u>		講義	
6	<u>ケアを展開するためのチームマネジメント（3）</u>		講義・演習	
7	<u>人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント（1）</u>		講義	
8	<u>人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント（2）</u>		講義	
9	<u>人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント（3）</u>		講義	
10	<u>人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント（4）</u>		講義・演習	
11	<u>組織の目標達成のためのチームマネジメント（1）</u>		講義	
12	<u>組織の目標達成のためのチームマネジメント（2）</u>		講義	
13	<u>組織の目標達成のためのチームマネジメント（3）</u>		講義・演習	
14	振り返り、まとめ		講義・演習	
15	試験		筆記試験	
テキスト・参考書	<p>最新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解 中央法規</p> <p>その他必要に応じて資料配布予定</p>			

科目名	4. 社会の理解		
授業形態・単位数	講義60時間(4単位)	開講学年	2年生・通年
担当講師	①高山啓一(第1~15回) ②魚屋真佐江(第16~30回)	担当講師の実務経験の有無	有・無
担当講師の実務経験	①高齢者施設を中心に、生活相談員として生活支援を行ってきた。障害者が高齢に伴い施設に入所するケースも多く障害者保健福祉・高齢者福祉に関わってきた経験を活かし指導にあたる。 ②社会福祉士として相談員の経験あり。実務において介護保険や障害者福祉に関わった経験を交えて、具体的に社会のしくみがどのように反映されているのかを伝えていく。		
評価基準	①授業態度と課題提出状況により20%、筆記試験により80%、合計100%で評価する。 ②筆記試験100%で評価する ※総合評価：(①+②)÷2=100%で評価となる		
目標	【第1~15回】 1. 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解するための学習とする。 2. わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する学習とする。 3. 介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する学習とする。 【第16~30回】 1. 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアシステムの基礎的な知識を習得する。 2. 高齢者福祉、介護保険制度の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する。 3. 介護実践に関連する諸制度を学び、日本の福祉の実際の運用を学ぶ。		
回	講義内容	方法	
1	第1章 社会と生活のしくみ 第1節生活の基本機能 1生活の基本機能・2「生活」への接近方法 ・3「社会生活」のメカニズム・4家庭生活の機能	(高山)	講義
2	第1章 社会と生活のしくみ 2節ライフスタイルの変化 1生活と働き方の変化・2少子高齢化と健康寿命 第3節家族の機能と役割 1家族の概念とその変容・2家族の構造と形態・3家族の機能とその変化・4家族観の多様化	(高山)	講義
3	第1章 社会と生活のしくみ 第4節社会・組織の機能と役割 1社会・組織の概念・2社会・組織の機能と役割・3グループ支援、組織化 第5節地域・地域社会 1地域、地域社会、コミュニティの概念・2地域社会の集団、組織 ・3地域社会の変化(産業化、都市化、過疎化)	(高山)	講義
4	第1章 社会と生活のしくみ 第6節地域社会における生活支援 1生活支援と福祉・2自助・互助・共助・公助	(高山)	講義
5	第1章 社会と生活のしくみ 振り返り	(高山)	テスト・講義
6	第3章 社会保障制度 第1節社会保障の基本的な考え方 1社会保障のイメージをつかむ・2社会保障の意義と役割 ・3社会保障の目的と機能・4ライフサイクルからみた社会保障	(高山)	講義
7	第3章 社会保障制度 第2節日本の社会保障制度の発達 1社会保障制度の歴史を学ぶ意義・2日本国憲法と社会保障 3戦後社会と社会保障に基盤整備・4国民皆保険・皆年金の確立 5社会保障の拡充・6社会保障の見直し・7介護保険と福祉の考え方の変化・8社会保障改革	(高山)	講義
8	第3章 社会保障制度 第3節日本の社会保障制度のしくみ 1社会保障を支えるもの・2社会保障の実施体制・3社会保障のしくみ ・4社会保障制度の体系・5年金保険・6医療保険・8雇用保険と労働者災害補償保険 ・9各種社会扶助	(高山)	講義
9	第3章 社会保障制度 第4節現代社会と社会保障制度 1少子高齢化の進行と社会保障・2財政問題と社会保障・3社会保障における給付と負担の関係・ 4持続可能な社会保障制度への道・5地域分権と社会保障構造改革の課題	(高山)	講義
10	第3章 社会保障制度 振り返り	(高山)	講義
11	第3章 社会保障制度 過去問題	(高山)	講義

12	第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援制度 第1節 障害者保健福祉の動向 1 障害者福祉の現状・2 障害者福祉の動向 第2節 障害者の定義 1 障害者の法的定義	(高山)	講義
13	第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援制度 第3節 障害者保健福祉に関する制度 1 障害者福祉の歴史・2 障害者保健福祉の法律・3 障害児に対する支援制度	(高山)	講義
14	第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援制度 第4節 障害者総合支援制度 1 障害者総合支援制度の目的・2 市町村、都道府県、国の役割 ・3 自立支援給付と地域生活支援事業・4 財源と利用者負担 ・5 障害者福祉サービスの種類と内容、利用手続き・6 障害支援区分の認定 ・7 協議会と基幹相談支援センター ・8 障害者総合支援制度における相談支援事業と相談支援専門員 ・9 障害児を支える障害者総合支援制度	(高山)	講義
15	テスト	(高山)	テスト
16	第2章 地域共生社会の実現に向けた制度や施策 地域福祉	(魚屋)	講義
17	第2章 地域共生社会の実現に向けた制度や施策 地域共生社会	(魚屋)	講義
18	第2章 地域共生社会の実現に向けた制度や施策 地域包括ケア	(魚屋)	講義
19	第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度 高齢者保健福祉の動向	(魚屋)	講義
20	第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度 高齢者保健福祉に関連する法体系	(魚屋)	講義
21	第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度 ①介護保険制度	(魚屋)	講義
22	第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度 ②介護保険制度	(魚屋)	講義
23	第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度 ③介護保険制度	(魚屋)	講義
24	第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度 ④介護保険制度	(魚屋)	講義
25	第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度 ⑤介護保険制度	(魚屋)	講義
26	第6章 介護実践に関連する諸制度 個人の人権を守る制度・施策	(魚屋)	講義
27	第6章 介護実践に関連する諸制度 保健医療に関する制度・施策	(魚屋)	講義
28	第6章 介護実践に関連する諸制度 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策	(魚屋)	講義
29	第6章 介護実践に関連する諸制度 地域生活を支援する制度・施策	(魚屋)	講義
30	科目習得試験	(魚屋)	テスト
テキスト・参考書		最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解 中央法規 その他、必要に応じて資料配布予定	

科目名		5. 介護インクルージョン I		
授業形態・単位数		講義・演習 60時間 4単位	開講学年	1 学年 通年
担当講師		魚屋 真佐江 (前期) 深澤 みはる (後期)	担当講師の実務経験の有無	有 ・ 無
担当講師の実務経験		障害者施設・高齢者施設・病院等において、現場経験あり。様々な背景を持つ方々との関りから、多様性を受け入れるために必要な素養を伝え、共生社会の担い手を育てる。		
評価基準		前期 (50点) 後期 (50点) レポート、提出物、授業参加・出席状況等を総合的に判断する。		
目標		1. 他者の文化や背景を理解しようとする姿勢を学び、介護の実践に必要な教養を高め、共生社会の担い手を育てる。 2. 多文化・多様性を受け入れていく共生社会において、自分自身が自立した社会人として他者を援助するとはどういうことかを考える。		
回	講義内容			方法
1	オリエンテーション シラバスの説明 介護職としてあなたが目指すもの 提出①			講義・演習
2	<u>多文化共生</u> 日本の生活理解 (ゴミ捨て・喫煙マナー・時間厳守・連絡の徹底等)			講義・演習
3	<u>生活文化</u> 日本の文化理解 (折り紙)			講義・演習
4	<u>教育制度</u> 介護で使う日本語 ① 提出②			講義
5	<u>教育制度</u> 介護で使う日本語 ② 提出③			講義
6	<u>多文化共生</u> 多様性の理解① (国と地域、異文化間コミュニケーション)			講義・演習
7	<u>多文化共生</u> 多様性の理解② (宗教と宗教的配慮、習慣、マナー)			講義・演習
8	<u>多文化共生</u> 多様性の理解③ (宗教と宗教的配慮、習慣、マナー)			講義・演習
9	<u>多文化共生</u> 多様性の理解④ 発表 提出④			講義・演習
10	<u>多文化共生</u> 共生社会 合理的配慮 提出⑤			講義
11	<u>生活文化</u> レクリエーションの重要性① (リバイバルダンス)			講義・演習
12	<u>生活文化</u> レクリエーションの重要性② (リバイバルダンス)			講義・演習
13	<u>教育制度</u> 介護職の待遇①			講義・演習
14	<u>教育制度</u> 介護職の待遇②			講義・演習

15	<u>教育制度</u> 介護職の待遇③ 提出⑥	講義・演習
16	<u>生活文化</u> 災害対策①（防災の日）	講義・演習
17	<u>生活文化</u> 災害対策②（防災ポスター作製）	講義・演習
18	<u>生活文化</u> 災害対策③（防災ポスター作製）	講義・演習
19	<u>多文化共生</u> 日本と各国を知る①（イベント・行事）	講義・演習
20	<u>多文化共生</u> 日本と各国を知る②（イベント・行事 ハロウィン）	講義・演習
21	<u>生活文化</u> インクルージョン（共生社会）の創造①（計画書の作成1）	講義
22	<u>生活文化</u> インクルージョン（共生社会）の創造②（計画書の作成2）	講義
23	<u>生活文化</u> インクルージョン（共生社会）の創造③（予算案の作成1）	講義
24	<u>生活文化</u> インクルージョン（共生社会）の創造④（レクリエーションの準備1）	講義・演習
25	<u>生活文化</u> インクルージョン（共生社会）の創造⑤（レクリエーションの準備2）	講義・演習
26	<u>多文化共生</u> 日本の文化を知る①（新年の挨拶）	講義
27	<u>多文化共生</u> 日本の文化を知る②（年賀状の書き方）	講義・演習
28	<u>多文化共生</u> 日本の文化を知る③（書道1）	講義・演習
29	<u>多文化共生</u> 日本の文化を知る④（書道2）	講義・演習
30	まとめ	講義
	テキスト・参考書	テキスト・参考書なし 適宜必要な資料を配布する

科目名	6. 介護インクルージョンⅡ		
授業形態・単位数	講義・演習 30時間 2単位	開講学年	2学年 前期
担当講師	魚屋 真佐江	担当講師の実務経験の有無	○有 ・ 無
担当講師の実務経験	障害者施設・高齢者施設等において、現場経験あり。様々な背景を抱える方々との関りから、多様性を受け入れるために必要な素養を育て、共生社会の実現を担う次世代の人材を育てることを目指す。また、採用面接を担当した経験から、キャリアデザインについて、社会人として求められる常識等についても伝授する。		
評価基準	提出物（80％） 発表会（20％） 授業態度：欠席1コマにつき、2点減点 遅刻・早退1回につき1点減点 授業途中退出1回につき0.5点減点		
目標	1. 介護の実践を支える教養及び、社会人としての常識を高め、豊かな人間性を養う。 2. 様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら共生社会への理解や国際的な視野を養う。		
回	講義内容	方法	
1	オリエンテーション シラバスの説明 多文化共生 共生社会 合理的配慮 【提出1：学んだこと】	講義	
2	生活文化 年金について学ぶ①（渋川年金事務所）	講義・演習	
3	生活文化 年金について学ぶ②（渋川年金事務所） 【提出2：感想文】	講義・演習	
4	教育制度 キャリアデザイン①（履歴書の書き方。自己アピールまで） 【提出3】	講義・演習	
5	教育制度 キャリアデザイン②（履歴書の書き方 志望動機） 【提出4：志望動機】	講義・演習	
6	教育制度 キャリアデザイン③（履歴書完成） 【提出5：履歴書】	講義・演習	
7	国際理解 日本と各国の文化①（国・地域自慢）作成	講義・演習	
8	国際理解 日本と各国の文化②（国・地域自慢）作成	講義・演習	
9	国際理解 日本と各国の文化③（国・地域自慢）発表	講義	
10	国際理解 日本と各国の文化④（国・地域自慢）発表 【提出6：感想文】	講義	
11	教育制度 キャリアデザイン④（電話のかけかた・受けかた）	講義・演習	
12	教育制度 キャリアデザイン⑤（就職活動・面接）	講義・演習	
13	教育制度 キャリアデザイン⑥（就職活動・面接）	講義・演習	
14	教育制度 介護職の心構え（パースグループ介護職員統括部長） 【提出7：学んだこと】	講義	
15	教育制度 介護職の接遇 【提出8：学んだこと】	講義・演習	
テキスト・参考書	テキスト・参考書なし 適宜必要な資料を配布する		

科目名	7. 介護の基本 I		
授業形態・単位数	講義60時間・4単位	開講学年	1 学年 通年
担当講師	金井 大輔	担当講師の実務経験の有無	○有 ・ 無
担当講師の実務経験	認知症対応型共同生活介護・小規模多機能居宅介護支援・介護老人保健施設での管理者・マネージャー経験を活かし、リアルな介護現場の状況を伝えながら、介護の基本に通じる学びを深めていきたい。		
評価基準	筆記試験（90%）※前期（45%）後期（45%） レポート提出・授業態度（10%）		
目標	<p>◎介護ニーズおよび介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題としてとらえ、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を習得する。</p> <p>◎地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能、さらに社会福祉及び介護福祉士法に関連する諸規定とうについて習得する。</p> <p>◎ICFの視点にもとづくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法について習得する。</p>		
回	講義内容	方法	
1	<u>介護福祉の基本となる理念（介護福祉を取り巻く状況-1）</u>	講義	
2	<u>介護福祉の基本となる理念（介護福祉を取り巻く状況-2）</u>	講義	
3	<u>介護福祉の基本となる理念（介護福祉の歴史-1）</u>	講義	
4	<u>介護福祉の基本となる理念（介護福祉の歴史-2-3）</u>	講義	
5	<u>介護福祉の基本となる理念（介護福祉の歴史-4）</u>	講義	
6	<u>介護福祉の基本となる理念（介護福祉の歴史-5）</u>	講義	
7	<u>介護福祉の基本となる理念（介護福祉の基本理念-1-2）</u>	講義	
8	<u>介護福祉の基本となる理念（介護福祉の基本理念-3）</u>	講義	
9	<u>介護福祉士の役割と機能（社会福祉士及び介護福祉士法-1-2）</u>	講義	
10	<u>介護福祉士の役割と機能（介護福祉士の活動の場と役割-1-2-3）</u>	講義	
11	<u>介護福祉士の役割と機能（介護福祉士の活動の場と役割-4-5）</u>	講義	
12	<u>介護福祉士の役割と機能（介護福祉士に求められる役割とその養成-1-2-3）</u>	講義	
13	<u>介護福祉士の役割と機能（介護福祉士に求められる役割とその養成-4）</u>	講義	

14	<u>介護福祉士の役割と機能（介護福祉士を支える団体-1-2-3-4）</u>	講義
15	前期筆記試験（50％）・前期まとめ	試験・講義
16	<u>介護福祉士の倫理（介護福祉士の倫理-1）</u>	講義
17	<u>介護福祉士の倫理（介護福祉士の倫理-2）</u>	講義
18	<u>介護福祉士の倫理（日本介護福祉士会の倫理綱領-1）</u>	講義
19	<u>介護福祉士の倫理（日本介護福祉士会の倫理綱領-2）</u>	講義
20	<u>自立に向けた介護（介護福祉における自立支援-1-2）</u>	講義
21	<u>自立に向けた介護（介護福祉における自立支援-3-4）</u>	講義
22	<u>自立に向けた介護（介護福祉における自立支援-5-6）</u>	講義
23	<u>自立に向けた介護（ICFの考え方-1）</u>	講義
24	<u>自立に向けた介護（自立支援とリハビリテーション-1-2）</u>	講義
25	<u>自立に向けた介護（自立支援とリハビリテーション-3-4）</u>	講義
26	<u>自立に向けた介護（自立支援とリハビリテーション-5）</u>	講義
27	<u>自立に向けた介護（自立支援と介護予防-1-2）</u>	講義
28	<u>自立に向けた介護（自立支援と介護予防-3-4）</u>	講義
29	<u>自立に向けた介護（自立支援と介護予防-5-6）</u>	講義
30	後期筆記試験（50％）・後期まとめ	試験・講義
	テキスト・参考書	最新・介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ 中央法規 その他必要に応じて資料配布予定

科目名		8. 介護の基本Ⅱ		
授業形態・単位数		講義60時間・4単位	開講学年	2学年通年
担当講師		①三富巧也／市橋優作（第1～15回） ②田口敏治／原田貴弘（第16～30回）	担当講師の実務経験の有無	有・無
担当講師の実務経験		①介護福祉士として15年以上の実務経験 ②介護福祉士として病院・老健で20年の実務経験		
評価基準		①筆記試験（100%） ②筆記試験（100%） ※総合評価：（①+②）÷2=100%で評価となる		
目標		<p>【第1～15回】</p> <p>◎私たちの生活を理解したうえで、介護福祉を必要とする方の生活やその人らしさの多様性を理解し、利用者個々に寄り添うことのできる考え方を身に付ける。</p> <p>◎生活を支えるフォーマル・インフォーマルサービス・地域連携を学び、介護福祉士としての視点を理解する。</p> <p>【第16～30回】</p> <p>◎介護現場でのさまざまな形の連携を理解し、チームケアを担う介護職となれるよう理解する。</p> <p>◎介護におけるリスクマネジメントの考え方を理解し、介護場面での事故および感染対策の具体的な手法について理解する。</p> <p>◎介護を担う人自身の健康を守るため、こころとからだの健康管理に必要な基礎知識と技術を身につける。</p>		
回	講義内容		方法	
1	私たちの生活の理解①（生活とはなにか）		（三富）	講義
2	私たちの生活の理解②（生活にとって大切な要素・生活の特性）		（三富）	講義
3	介護福祉を必要とする人たちの暮らし①（介護福祉を必要とする高齢者の暮らし）		（三富）	講義
4	介護福祉を必要とする人たちの暮らし②（介護福祉を必要とする高齢者の暮らし）		（三富）	講義
5	介護福祉を必要とする人たちの暮らし①（介護福祉を必要とする障害者の暮らし）		（三富）	講義
6	介護福祉を必要とする人たちの暮らし②（介護福祉を必要とする障害者の暮らし）		（三富）	講義
7	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解		（三富）	講義
8	生活のしづらさの理解とその支援		（三富）	講義
9	生活を支えるフォーマルサービス（社会的サービス）とは①		（市橋）	講義
10	生活を支えるフォーマルサービス（社会的サービス）とは②		（市橋）	講義

11	生活を支えるインフォーマルサービス（私的サービス）とは	（市橋）	講 義
12	地域連携①（地域連携の意義と目的・機関の理解）	（市橋）	講 義
13	地域連携②（地域福祉のにない手・利用者を取り巻く地域連携の実際）	（市橋）	講 義
14	前期まとめと復習	（市橋）	講 義
15	前期筆記試験	（市橋）	試 験
16	介護における安全の確保 （介護における安全の確保の重要性、安全確保のためのリスクマネジメント）	（原田）	講 義
17	事故防止と安全対策	（原田）	講 義
18	感染管理のための方策①（生活の場での感染対策、高齢者介護施設の感染対策）	（原田）	講 義
19	感染管理のための方策② （感染対策とリスクマネジメント、感染対策の基礎知識、感染症発生時の対応）	（原田）	講 義
20	他職種連携①（他職種連携の意義と目的・協働職種の理解と連携）	（田口）	講 義
21	他職種連携②（利用者を取り巻く他職種連携の実際）	（田口）	講 義
22	地域連携①（地域連携の意義と目的）	（田口）	講 義
23	地域連携②（地域連携にかかわる機関の理解・利用者を取り巻く地域連携）	（田口）	講 義
24	健康管理の意義と目的（介護という仕事の特徴、介護職の健康と介護の質）	（田口）	講 義
25	健康管理に必要な知識と技術①（こころの健康管理）	（田口）	講 義
26	健康管理に必要な知識と技術①（からだの健康管理）	（田口）	講 義
27	安心して働ける環境づくり（労働環境の整備、改善・労働安全の基本原則）	（原田）	講 義
28	介護を取り巻く状況の変化と自身の学び方・専門職業人としての介護福祉士	（原田）	講 義
29	介護の基本Ⅱまとめ	（田口）	講 義
30	後期筆記試験	（田口）	試 験
テキスト・参考書		最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 中央法規	

科目名		9. 介護予防		
授業形態・単位数		演習30時間・1単位	開講学年	1学年 前期
担当講師		勝田 隼人	担当講師の実務経験の有無	有・無
担当講師の実務経験		在宅や有料老人ホームでの高齢者の様々な疾患や障害、老年期にある方に対しての生活期のリハビリテーション・レクリエーションに携わってきた。これらの経験から自立支援・介護予防の基礎、実践への応用をリハビリテーションの考えに基づいて講義・実技を指導する。		
評価基準		実技試験：50% 筆記試験：50%		
目標		<ul style="list-style-type: none"> ・介護における予防的視点を養うために介護予防の意義と目的を理解する。 ・高齢者を対象とした介護予防プログラムの実践能力を習得し、援助者としての役割を学ぶ。 ・介護予防の手段としてのレクリエーションプログラムを目的をもって作成する能力を身につける。 		
回	講義内容			方法
1	オリエンテーション（授業の説明）・介護予防の意義と目的（フレイル等）			講義・演習
2	レクリエーションとは			講義・演習
3	介護予防の実践① 身体を動かすとは（運動について）			講義・演習
4	介護予防の実践② 必要な栄養とは（栄養について）			講義・演習
5	介護予防の実践③ 口腔機能とは（口腔機能、オーラルフレイルについて）			講義・演習
6	介護予防の実践④ 頭を使うとは（脳機能、認知症予防脳トレについて）			講義・演習
7	日本の伝統的な遊び			講義・演習
8	実技試験に向けて グループで介護予防のレクリエーションを企画・準備する ①			演習
9	実技試験に向けて グループで介護予防のレクリエーションを企画・準備する ②			演習
10	実技試験に向けて グループで介護予防のレクリエーションを企画・準備する ③			演習
11	実技試験（50%）			演習・試験
12				
13	実技試験・実習先で行ったレクリエーションの振り返り			講義・演習
14	まとめ（第1回～第13回の講義）			講義
15	定期試験（50%） ※試験範囲第1回～第14回			試験
テキスト・参考書		レクリエーション支援の基礎 公益財団法人日本レクリエーション協会（参考書） ＊参考資料：イチからわかる！フレイル・介護予防Q&A（医歯薬出版） ※配布資料にて授業を展開する。毎回講義資料配布予定		

科目名	10. リハビリテーション		
授業形態・単位数	講義30時間・2単位	開講学年	2学年 前期
担当講師	林 翔太 / 田辺 将也	担当講師の実務経験の有無	○有 ・ 無
担当講師の実務経験	講師両名とも理学療法士である。主に高齢者を対象とした理学療法について、病院等の医療施設から地域における介護施設まで、幅広い経験を有している。		
評価基準	講義期間内の2回の筆記試験により判定する。中間試験50%、学期末試験50%として、全体で60%以上を合格とする。		
目標	リハビリテーションの理念や障害分類、リハビリテーションのサービス体系について理解し、介護職としての資質や目的意識を高めるために①リハビリテーションの理念を知ること、②リハビリテーションのサービス体系を知ること、③疾患ごとの障がい形態や特徴を理解することを講義の到達目標とする。		
回	講義内容	方法	
1	<u>リハビリテーションの理念</u> (ガイダンス込み)	講義	
2	<u>リハビリテーションの領域と役割</u>	講義	
3	<u>リハビリテーションに関する社会資源</u>	講義	
4	<u>福祉用具</u>	講義	
5	<u>住居の改造/福祉のまちづくり</u>	講義	
6	<u>リハビリテーション介護</u>	講義	
7	中間試験 (第1回～第6回の内容について)	中間試験	
8	<u>関節リウマチのリハビリテーション</u>	講義	
9	<u>パーキンソン病のリハビリテーション</u>	講義	
10	<u>脳卒中のリハビリテーション①</u>	講義	
11	<u>脳卒中のリハビリテーション②</u>	講義	
12	<u>脊髄損傷のリハビリテーション</u>	講義	
13	<u>高齢者のリハビリテーション</u>	講義	
14	<u>地域リハビリテーション</u>	講義	
15	学期末試験 (第8回～第14回の内容について)	定期試験	
テキスト・参考書	テキスト：授業時に配布する資料を中心とする 参考書：最新介護福祉全書別巻2 リハビリテーション論 メヂカルフレンド社		

科目名		11. コミュニケーション技術		
授業形態・単位数		演習60時間（2単位）	開講学年	1 学年
担当講師		魚屋 真佐江	担当講師の実務経験の有無	○有 ・ 無
担当講師の実務経験		社会福祉士として障害者施設や高齢者施設において相談員の経験あり。コミュニケーション技術が現場においてどのようになされているか、事例を交えて伝え、より実践的な技術の習得をめざす。		
評価基準		筆記試験（中間試験40%+期末テスト50%） 授業態度等（10%）合計100%で評価する。		
目標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護場面における基本的態度を習得する。 2. 対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学ぶ。 3. 介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。 		
回	講義内容			方法
1	介護場面における基本的態度①（日常生活に必要な挨拶と身だしなみ）			講義・演習
2	介護場面における基本的態度②（日常生活に必要な挨拶と身だしなみ）			講義・演習
3	介護におけるコミュニケーションの基本			講義・演習
4	コミュニケーションの基本技術① 傾聴・受容・共感			講義・演習
5	コミュニケーションの基本技術② 言語・非言語コミュニケーション			講義・演習
6	コミュニケーションの基本技術③ 目的別コミュニケーション技術			講義・演習
7	コミュニケーションの基本技術④ 集団コミュニケーション技術			講義・演習
8	コミュニケーションの基本技法 情報伝達			講義・演習
9	障害の特性に応じたコミュニケーション① コミュニケーション障害とは			講義・演習
10	障害の特性に応じたコミュニケーション② 視覚・聴覚障害のある人への支援			講義・演習
11	障害の特性に応じたコミュニケーション③ 構音障害・失語症の人への支援			講義・演習
12	障害の特性に応じたコミュニケーション④ 認知症・うつ病・抑うつ状態の人への支援			講義・演習
13	障害の特性に応じたコミュニケーション⑤ 統合失調症・知的障害・発達障害のある人への支援			講義・演習
14	まとめ			講義・演習

15	中間テスト	試験
16	コミュニケーション技術の留意点を伝言ゲームを通して学ぶ	講義・演習
17	家族とのコミュニケーション① 家族との関係づくり	講義・演習
18	家族とのコミュニケーション② 家族への支援	講義・演習
19	介護におけるチームのコミュニケーション① チームのコミュニケーションとは	講義・演習
20	介護におけるチームのコミュニケーション② 報告・連絡・相談の技術	講義・演習
21	介護におけるチームのコミュニケーション③ 記録の技術	講義・演習
22	会議・議事進行・説明の技術① カンファレンスとは	講義・演習
23	会議・議事進行・説明の技術② カンファレンスの進め方	講義・演習
24	会議・議事進行・説明の技術③ カンファレンスの運用	講義・演習
25	会議・議事進行・説明の技術④ カンファレンスの振り返り	講義・演習
26	事例検討に関する技術	講義・演習
27	エルダースピークについて学ぶ	講義・演習
28	コミュニケーションに資する高齢者の背景を学ぶ	講義・演習
29	まとめ	講義・演習
30	試験	試験
	テキスト・参考書	最新・介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術 中央法規

科目名		12. 生活支援技術		
授業形態・単位数	講義60時間・4単位	開講学年	1学年 通年	
担当講師	①荻野由起子（第1～15回） ②魚屋真佐江（第16～30回）	担当講師の実務経験の有無	有・無	
担当講師の実務経験	①被服製作と被服材料学を服装専門学校にて指導経験あり。 ②介護施設や障害者施設にて勤務経験あり。現場における災害訓練や福祉用具の実際を伝え、利用者を支える視点を講じる。			
	①衣生活：筆記試験（60%）提出物（40%） ②生活支援：筆記試験(50%) 提出物(30%) 発表（20%） ※総合評価：（①+②）÷2=100%で評価となる			
目標	<p>【第1～15回：衣生活】</p> <p>①被服の機能、管理について理解し高齢者に適した衣類の知識を深める。 ②基礎的な裁縫の技術を習得する。</p> <p>【第16～30回：生活支援】</p> <p>①尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識を身につける。 ②自立に向けた様々な生活支援の基礎的な知識を習得する。 ③福祉用具を活用する知識を習得する。 ④災害時に活用する知識を習得し、防災意識を高める。</p>			
回	講義内容			方法
1	(衣生活①) シラバス、裁縫道具の説明		(荻野)	講義
2	(衣生活②) 被服生活の基本知識	ボタン付け	(荻野)	講義・実習
3	(衣生活③) 繊維の種類と特徴	ボタンホールの工夫	(荻野)	講義・実習
4	(衣生活④) 布地の性質	衣類の補修①	(荻野)	講義・実習
5	(衣生活⑤) 衣類の洗濯	衣類の補修②	(荻野)	講義・実習
6	(衣生活⑥) 衣類の漂白としみ抜き	ミシンの基本操作	(荻野)	講義・実習
7	(衣生活⑦) 衣類取り扱い絵表示①	アイロンがけの注意点	(荻野)	講義・実習
8	(衣生活⑧) 衣類取り扱い絵表示②	エプロン名札付け	(荻野)	講義・実習
9	(衣生活⑨) 中間筆記試験		(荻野)	筆記試験
10	(衣生活⑩) 衣類の保管	刺し子の図案写し	(荻野)	講義・実習
11	(衣生活⑪) 衣類・寝具の衛生管理	刺し子の実技	(荻野)	講義・実習

12	(衣生活⑫) 高齢者への対応 (着脱しやすい工夫) 刺し子の実技 (荻野)	講義・実習
13	(衣生活⑬) 高齢者への対応 (生理機能に合わせた工夫) 和服のたたみ方 (荻野)	講義・実習
14	(衣生活⑭) 高齢者への対応 (運動機能に合わせた工夫) 和服の着付け (荻野)	講義・実習
15	(衣生活⑮) 筆記・実習試験 (荻野)	筆記・実習試験
16	(生活支援①) シラバス説明・生活支援とは何か (意義・目的) 【提出物1】 (魚屋)	講義・演習
17	(生活支援②) 生活支援と介護過程 (魚屋)	講 義
18	(生活支援③) 居住環境の整備 住まいの役割と機能 (魚屋)	講 義
19	(生活支援④) 居住環境の整備 自宅の間取りと危険箇所 【提出物2】 (魚屋)	講義・演習
20	(生活支援⑤) 居住環境の整備 多職種との連携 (魚屋)	講義・演習
21	(生活支援⑥) 生活支援と福祉用具の活用 介護保険と障害者支援法の貸与 (魚屋)	講義・演習
22	(生活支援⑦) 福祉用具を選ぶための視点 (魚屋)	講 義
23	(生活支援⑧) 自立に向けた家事の介護 (魚屋)	講義・演習
24	(生活支援⑨) 家事の介護における多職種との連携 【提出物3】 (魚屋)	講 義
25	(生活支援⑩) 緊急時の対応 (魚屋)	講 義
26	(生活支援⑪) 災害時における生活支援 災害時における介護福祉士の役割 (魚屋)	講 義
27	(生活支援⑫) 災害時における生活支援 災害時の支援何ができるか? (魚屋)	講 義
28	(生活支援⑬) 災害時における生活支援 段ボールトイレを作ってみよう (魚屋)	講 義
29	(生活支援⑭) 災害時における生活支援 災害時の支援できること (発表) (魚屋)	講 義
30	(生活支援⑮) 定期試験 (魚屋)	試験
テキスト・参考書		最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 中央法規 随時コピー配布 (資料)

科目名		13. 生活支援技術演習Ⅰ	
授業形態・単位数	演習120時間・4単位	開講学年	1 学年 通年
担当講師	古川 太基/戸丸 美智子/小林 美夕紀	担当講師の実務経験の有無	○有 ・ 無
担当講師の実務経験	子供から高齢者まで、様々な疾患や障害のある方に対して、身体介護を行ってきた。これらの経験から基礎から応用まで自立支援の考えに基づいた介護技術を指導する。		
評価基準	筆記試験40%、実技試験60%（ミニテスト含む） レポート課題の提出：減点方式で総合評価から減点する 出席点：減点方式で総合評価から減点する （身だしなみ、忘れ物、演習着登校、態度：1つでも該当で、1コマにつき－1点）		
目標	・利用者の自立を尊重し、潜在能力を引き出すための介護技術を理解する。 ・利用者個々に応じた適切で安全な援助を行うために、基本的な介護技術の意義や目的を理解する。また、実践できるよう演習を通して習得する。		
回	講義内容	方法	
1	生活支援とは（オリエンテーション含む） ①シラバス説明・実習室の使用方法 ②介護福祉士が行う生活支援、アセスメント	講義・演習	
2	睡眠：①睡眠の意義と目的 ②ベッドの物品と使用方法	講義・演習	
3	睡眠：ベッドメイキング ①広げ方、三角コーナー ②たたみ方	講義・演習	
4	睡眠：ベッドメイキング ①ラバーシート ②横シート ③枕	講義・演習	
5	睡眠：ベッドメイキング 実技試験告知と練習	講義・演習	
6	睡眠：ベッドメイキング 実技試験練習	講義・演習	
7	睡眠：ベッドメイキング 実技試験練習	講義・演習	
8	睡眠：ベッドメイキング 実技試験	実技試験①	
9			
10	移動：①移動の意義と目的 ②主な姿勢、麻痺の障害部位 ③ボディメカニクス、関節可動域	講義・演習	
11	移動：ボディメカニクスの実践 ①上方移動 ②水平移動	講義・演習	
12	移動：ボディメカニクスの実践 仰臥位～側臥位（背面法、対面法）	講義・演習	
13	移動：ボディメカニクスの実践 ①仰臥位～長座位～端座位 ②仰臥位～側臥位～端座位	講義・演習	
14	★ミニテスト（仰臥位⇒端座位）	講義・演習	
15	移動：ボディメカニクスの実践 ①立位と座位のしくみ ②健側と患側 ③立位・座位介助	講義・演習	
16	移動：①車椅子の構造 ②ベッド⇒車椅子の移乗（全介助）	講義・演習	
17	移動：車椅子の移動介助 自走体験	講義・演習	
18	移動：車椅子の移動介助 介助方法（段差、坂道、砂利道）	講義・演習	
19	移動：実技試験告知と練習	講義・演習	
20	移動：実技試験練習	講義・演習	
21	移動：杖歩行介助 ①歩行のしくみ ②杖の使用方法	講義・演習	
22	③杖歩行の介助方法（平面、階段）		
23	移動：視覚障害者の歩行介助	講義・演習	
24			

25	★ミニテスト（杖歩行）	講義・演習
26	移動：実技試験練習	講義・演習
27	移動：実技試験練習	講義・演習
28	移動：実技試験	実技試験②
29		
30	身じたく：①意義と目的 ②整容介助（顔拭き、髭剃り、爪切り）	講義・演習
31	身じたく：衣服の着脱 座位時でのかぶりと前開き（一部介助）	講義・演習
32	身じたく：実技試験告知と練習	講義・演習
33	身じたく：実技試験練習	講義・演習
34	食事：①意義と目的 ②食事介助	講義・演習
35		
36	身じたく：実技試験練習	講義・演習
37	身じたく：実技試験練習	講義・演習
38	身じたく：実技試験	実技試験③
39		
40	排泄：①意義と目的 ②トイレ誘導	講義・演習
41	排泄：ポータブルトイレ	講義・演習
42	排泄：①尿器 ②便器	講義・演習
43	排泄：おむつ交換とパットの使い方	講義・演習
44	排泄：実技試験告知、練習	講義・演習
45	排泄：陰部洗浄、実技試験練習	講義・演習
46	清保：入浴、清潔保持の意義と目的	講義・演習
47	清保：ベッド上での部分浴（ケリーパット）	講義・演習
48		
49	清保：入浴介助	講義・演習
50	ベッド上での部分浴と整容（手浴、足浴、全身清拭）	
51	排泄：実技試験練習	講義・演習
52	排泄：実技試験練習	講義・演習
53	排泄：実技試験	実技試験④
54		
55	実習に向けて①：ベッドメイク	講義・演習
56	実習に向けて②：体位変換、まとめ（筆記試験に向けて）	講義・演習
57	実習に向けて③：移乗介助	講義・演習
58	実習に向けて④：着脱介助（臥位時のかぶり、浴衣、つなぎ）、排泄介助	講義・演習
59	★ミニテスト（移乗）	講義・演習
60	筆記試験	筆記試験
テキスト・参考書		最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 中央法規 最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 中央法規 最新・介護福祉士養成講座11 ころとからだのしくみ 中央法規 ※必要に応じて資料配布、他科目のテキストを使用する場合あり

科目名	14. 生活支援技術演習 II		
授業形態・単位数	演習60時間・2単位	開講学年	2学年 通年
担当講師	小林 美夕紀/戸丸 美智子/古川 太基	担当講師の実務経験の有無	○有・無
担当講師の実務経験	介護施設での勤務経験があり、利用者の自立支援・残存機能の活用を目指した介護技術の指導を行う。		
評価基準	筆記試験30%・実技試験70%（前期20%・後期40%・ミニテスト10%） レポート課題の提出状況等：未提出・未記入の場合は減点とする 出席点：減点方式で総合評価から減点する、演習着着用の登校の禁止 （身だしなみ、忘れ物、演習着登校、態度：1つでも該当で、1コマにつき2点減点）		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次に習得した基本的な介護技術を応用し、安全・安楽に考慮した援助ができるようになる。 ・利用者の自立を尊重し、個々に応じた援助ができるようになる。様々な角度から介護技術を捉えられる力を養い、実践できるようになる。 ・障害の状況や状態に応じた援助について学び、介護福祉士の役割と生活支援のあり方について理解を深める。 ・終末期における援助について学び、介護福祉士の役割と生活支援のあり方について理解を深める。 		
回	講義内容	方法	
1	1年間の講義に向けて ・オリエンテーション：シラバス説明・評価基準説明 移動の介護の実践的応用：複数名での移乗介助 ①ベッド⇒車椅子 ②ベッド⇒ストレッチャー	講義・演習	
2	実習に向けて①：自立に向けた移動の介護等	講義・演習	
3	★ミニテスト（起き上がり、移乗）		
4	実習に向けて②：自立に向けた身支度・排泄の介護等	講義・演習	
5	★ミニテスト（着脱）		
6	前期実技試験告知、練習	講義・演習	
7			
8	福祉用具を活用した介護技術①② 床走行式リフト、スライディングボード、スライディングシート、スーパートランスファー	講義・演習	
9			
10	前期実技試験練習	講義・演習	
11	前期実技試験	試験	
12			

13	<u>終末期：終末期の意義と介護福祉士の役割（ターミナルケア）</u>	講義・演習
14	<u>終末期：死に対する心理の理解（キューブラーロス）</u>	講義・演習
15		
16	<u>終末期：終末期における介護技術（エンゼルケア）</u>	講義・演習
17	<u>終末期：家族への支援の実際（グリーフケア）</u>	講義・演習
18		
19	高齢者施設の災害対策・筆記試験まとめ	講義
20	筆記試験	試験
21	チームアプローチ 災害時における対応	講義・演習
22		
23		
24		
25	最終実技試験告知、事例発表練習	講義・演習
26		
27	事例発表、最終実技試験の注意事項	講義・演習
28		
29	最終実技試験	試験
30		
テキスト・参考書		<p>最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 中央法規 最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 中央法規 最新・介護福祉士養成講座11 ころとからだのしくみ 中央法規 最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 中央法規（参考書） ※必要に応じて資料配布、他科目のテキストを使用する場合あり。</p>

科目名		15. 食生活援助		
授業形態・単位数		演習60時間・2単位	開講学年	1学年 通年
担当講師		八木 卓・佐藤 高代	担当講師の実務経験の有無	有・無
担当講師の実務経験		<p>(八木) 管理栄養士を有し、病院において、栄養管理・栄養指導や食事の調理・提供を行ってきた。これらの経験から栄養や食生活、調理の基礎知識、食事面からのアプローチ方法、疾病に対する食事療法を指導する。</p> <p>(佐藤) 管理栄養士を有し、老健において、主に高齢者に対し、栄養管理や食事提供を行ってきた。これらの経験から栄養や食生活の基礎知識、高齢者に対する食事面からのアプローチ方法、疾病に対する食事療法を指導する。</p>		
評価基準		筆記試験 (50%)、グループワーク (20%)、レポート提出 (20%)、 学習態度・出席状況 (10%)		
目標		<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養素、食生活の基礎について理解する。 ・ 調理の手技や食品、食器、調理器具の衛生的な取扱い方について、調理実習を通じて理解する。 ・ 高齢者の身体機能の変化に合わせた、食事面からの介入方法を理解する。 		
回	講義内容		方法	
1	講義ガイダンス・調理実習① (とろみ調整食品)		(八木)	講義・実習
2	講義ガイダンス・調理実習① (とろみ調整食品)		(八木)	〃
3	調理実習②		(八木)	実習
4	調理実習②		(八木)	〃
5	調理実習③		(八木)	実習
6	調理実習③		(八木)	〃
7	<u>栄養素について</u>		(佐藤)	講義
8	<u>栄養素について</u>		(佐藤)	講義
9	<u>栄養素について</u>		(佐藤)	講義
10	<u>食中毒について</u>		(佐藤)	講義
11	<u>食生活の基礎について</u>		(佐藤)	講義
12	<u>献立作成について</u>		(佐藤)	講義
13	<u>高齢者の身体的変化と食事について</u>		(佐藤)	講義
14	<u>疾病と食事療法について</u>		(佐藤)	講義

15	疾病と食事療法について	(佐藤)	講義
16	疾病と食事療法について	(佐藤)	講義
17	調理実習④	(八木)	実習
18	調理実習④	(八木)	〃
19	調理実習⑤	(八木)	実習
20	調理実習⑤	(八木)	〃
21	調理実習⑥	(八木)	実習
22	調理実習⑥	(八木)	〃
23	調理実習⑦	(八木)	実習
24	調理実習⑦	(八木)	〃
25	調理実習⑧	(八木)	実習
26	調理実習⑧	(八木)	〃
27	調理実習⑨	(八木)	実習
28	調理実習⑨	(八木)	〃
29	グループワーク発表、食生活援助振り返り	(佐藤)	講義
30	まとめ・試験	(佐藤)	試験
テキスト・参考書		最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 中央法規 調理実習：エプロン・三角巾・マスク・上靴を用意	

科目名	16. 介護過程総論		
授業形態・単位数	講義60時間・4単位	開講学年	1学年・通年
担当講師	小林 美夕紀	担当講師の実務経験の有無	○有・無
担当講師の実務経験	高齢者施設にて介護福祉士・介護支援専門員として勤務した経験を活かし、利用者の個別性に応じた介護支援の思考過程を指導する		
評価基準	筆記試験（定期試験60％） 各提出物（40％）		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 介護過程の意義と目的を理解し、その一連のプロセスについて基礎的な知識を習得する。 ○ 利用者一人ひとりの個別性を踏まえ、根拠に基づいた介護過程を展開するための基本的な技術を身につける。 ○ チームアプローチの意義と多職種連携の必要性について理解できる。 		
回	講義内容	方法	
1	介護過程とは / 介護過程で学ぶこと・自己理解と他者理解	講義・演習	
2	介護過程意義と目的 / 介護過程の意義・思考過程	講義・演習	
3	介護過程意義と目的 / 介護過程の目的・基本視点・価値観	講義・演習	
4	介護過程プロセスとチームアプローチ / チームビルディング	講義・演習	
5	介護過程の展開 / アセスメント(情報収集)	講義・演習	
6	介護過程の展開 / アセスメント(ICFの考え方・視点に基づく情報整理)	講義・演習	
7	介護過程の展開 / アセスメント(ICFの考え方・視点に基づく情報整理)	講義・演習	
8	介護過程の展開 / アセスメント(解釈・関連づけ・統合化・課題抽出)	講義・演習	
9	介護過程の展開 / アセスメント(解釈・関連づけ・統合化・課題抽出)	講義・演習	
10	介護過程の展開 / アセスメント(解釈・関連づけ・統合化・課題抽出)	講義・演習	
11	ケアマネジメントと介護過程 / 介護福祉分野で使用される計画書	講義・演習	
12	介護過程の展開 / 計画(目標設定・介護計画立案)	講義・演習	

13	介護過程の展開 / 計画(目標設定・介護計画立案)	講義・演習
14	介護過程の展開 / 実施(計画の実施と記録)	講義・演習
15	介護過程の展開 / 評価(評価の目的・内容と方法・視点)	講義・演習
16	介護過程の展開 / 実施・評価	講義・演習
17		
18	介護過程の振り返り / 介護過程の意義・目的・プロセスの理解度	講義・演習
19		
20	介護過程の実践的展開 / 事例を基にプロセスを展開する	講義・演習
21		
22	介護過程の実践的展開 / 事例を基にプロセスを展開する	講義・演習
23		
24	介護過程の実践的展開 / 事例を基にプロセスを展開する	講義・演習
25		
26	介護過程の実践的展開 / 事例を基にプロセスを展開する	講義・演習
27		
28	介護過程の実践的展開 / 事例を基にプロセスを展開する	講義・演習
29	介護過程まとめ	講義・演習
30	定期試験	試験
テキスト・参考書		最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規 ※他必要に応じて資料を配布する。

科目名		17. 介護過程各論	
授業形態・単位数	講義60時間・4単位	開講学年	2学年・通年
担当講師	小林美夕紀	担当講師の実務経験の有無	○有・無
担当講師の実務経験	高齢者施設にて介護福祉士・介護支援専門員として勤務した経験を活かし、利用者の個別性に応じた介護支援の思考過程を指導する		
評価基準	提出物（40%）・筆記試験（60%）		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。 ○ 介護過程の展開に基づいた生活支援について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ① 自立に向けた介護過程展開の実際を理解する。 ② 利用者の状況・状態に応じた介護過程の展開を理解する。 ○ 介護過程の展開を事例を通じて理解する。 		
回	講義内容	方法	
1	介護過程の振り返り / 1年間の講義にむけて	講義	
2	介護過程とケアマネジメント / 在宅で支援が必要な利用者の生活	講義・演習	
3	介護過程の実践的展開：事例の検討① 実践的な情報収集	講義・演習	
4	介護過程の実践的展開：事例の検討② 実践的な情報収集	講義・演習	
5	介護過程の実践的展開：事例検討 情報の整理	講義・演習	
6	介護過程の実践的展開：事例検討 アセスメント	講義・演習	
7	介護過程の実践的展開：事例検討 アセスメント	講義・演習	
8	介護過程の実践的展開：事例検討 アセスメント	講義・演習	
9	介護過程の実践的展開：事例検討 アセスメント	講義・演習	
10	介護過程の実践的展開 実習に向けて 情報収集とアセスメント	講義・演習	
11	介護過程の実践的展開：事例の検討 課題の抽出、目標設定	講義・演習	
12	実習で担当した利用者の生活課題を振り返る		
13	介護過程の実践的展開：事例の検討 介護計画の立案	講義・演習	
14	【個別援助計画】具体的な援助内容・方法の検討		
15	介護過程の実践的展開：事例検討 アセスメント	講義・演習	
16	介護過程の実践的展開：事例検討 アセスメント	講義・演習	

17	介護過程の実践的展開：事例検討 <u>介護計画の立案</u>	講義・演習
18	介護過程の実践的展開：事例検討 <u>介護計画の立案</u>	講義・演習
19	介護過程の実践的展開：事例検討 <u>実施・実施記録</u>	講義・演習
20	介護過程の実践的展開：事例検討 <u>実施・実施記録</u>	講義・演習
21	介護過程の実践的展開：事例検討 <u>評価</u>	講義・演習
22	介護過程の実践的展開：事例検討 <u>評価</u>	講義・演習
23	実習における介護過程の展開 <u>個別援助計画の立案、実施・評価（実習に向けて）</u>	講義・演習
24	実習IIで困らないためのアセスメントを考えよう	
25	介護過程の実践的展開：介護計画の修正（再アセスメント）	講義・演習
26	実習の振り返り、担当利用者の今後の支援について考える	
27	<u>介護過程とチームアプローチ</u> / <u>介護福祉職チームと多職種連携</u>	講義・演習
28	まとめ / 利用者の生活と介護過程の展開から考える介護福祉士の専門性	講義・演習
29		
30	定期試験	試験
テキスト・参考書		<p>最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規</p> <p>※他必要に応じて資料を配布する。</p>

科目名	18. 事例研究		
授業形態・単位数	演習30時間・1単位	開講学年	2学年 後期
担当講師	魚屋 真佐江	担当講師の実務経験の有無	有・無
担当講師の実務経験	障害者施設にて事例研究論文の校正担当責任者を5年務め、様々な事例研究発表に関わる。実務に赴いた後に、論文執筆ができることを目指す。		
評価基準	演習提出物(20%) 発表会(30%) 論文提出(50%) 授業態度：欠席1コマにつき、2点減点 遅刻・早退1回につき1点減点 授業途中退出1回につき0.5点減点		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 介護実践に研究を活用する意義・目的を理解する。 ② 事例研究の進め方、作成方法を理解する。 ③ 論文としての文章表現を学び身につける。 ④ 事例研究を通して質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解する。 		
回	講義内容	方法	
1	事例研究とは 研究の意義・目的 事例研究の視点(エンパワー視点等) 事例研究の守るべき倫理等	講義	
2	事例研究の書き方(介護過程の展開と事例研究の関係) 先行研究について(文献の必要性、文献の検索方法)	講義	
3	事例研究を読んで理解を深める	講義・演習	
4	事例研究を読んで理解を深める	講義・演習	
5	アンケート調査をしてみる① 調査を行ううえでの留意点 アンケートを作ってみる 【提出物①(アンケート)】	演習	
6	アンケート調査をしてみる② 各グループのアンケートに答える+アンケートの集計	演習	
7	アンケート調査をしてみる③	演習	
8	集計した結果からみえたことを発表用にまとめる 【提出物②(発表資料)】	演習	
9	発表	演習	
10	研究論文をまとめる① 実習記録(はじめに)	講義・演習	
11	研究論文をまとめる② 実習記録(介護の実際・事例紹介)	講義・演習	
12	研究論文をまとめる③ 実習記録(介護の実際・課題・仮定・目的)	講義・演習	
13	研究論文をまとめる④ 実習記録(介護の実際・研究方法・結果・エビデンスを示す)	講義・演習	
14	研究論文をまとめる⑤ 実習記録(考察とまとめ)	講義・演習	
15	研究論文をまとめる⑥ 実習記録(謝辞・はじめにからの確認)	講義・演習	
テキスト・参考書	講義は配布資料にて展開する		

科目名	19. 介護総合演習Ⅰ		
授業形態・単位数	演習60時間（2単位）	開講学年	1 学年
担当講師	古川 太基	担当講師の実務経験の有無	○・無
担当講師の実務経験	6年ほど障害者(児)や高齢者の介護を行ってきた。実習指導者講習会を修了し、実習に必要な指導方法や実習で求められる態度を理解している。実習を通して介護福祉士に必要な素養を育てていく。		
評価基準	筆記試験：30% 実技試験：30% 提出物：40% 出席点：減点方式（欠席数 × -3点）		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士として必要な専門知識・技術を身につけるための介護実習の必要性について理解する。 ・各実習段階における学習の視点・目標・目的について理解を深め、効果的な学習をするための準備を行う。 ・記録の書き方、必要性について理解する。 ・介護福祉士として人に伝える能力の向上を図る。 		
回	講義内容	方法	
1	オリエンテーション、実習施設の理解（実習Ⅰ-(1)に向けて）	講義	
2	Ⅰ-(1)事前学習 実習に取り組む姿勢について 実習Ⅰ-(1)の特徴と各書式の配布	提出① 実習に向けて学校での生活態度	講義・演習
3	Ⅰ-(1)事前学習 施設概要、実習記録の記入方法	講義・演習	
4	Ⅰ-(2)事前学習 実習記録の記入方法	提出② 実習記録練習	講義・演習
5	Ⅰ-(1)事前学習 実習ファイル作成、実習目標の確認、レクリエーションの考え	講義・演習	
6		提出③ 実習Ⅰ-(1) 目標	講義・演習
7	Ⅰ-(1)事前学習 事前オリエンテーションの進め方（電話のかけ方等） ※スーツチェック（身だしなみの確認）	講義・演習	
8	Ⅰ-(1)通所介護実習 事前オリエンテーション	講義・演習	
9	Ⅰ-(1)通所介護実習 実習前の最終確認、送迎体験	講義・演習	
10		講義・演習	
11	Ⅰ-(1)事後学習 実習ファイルの整理A:B 通所介護実習：振り返り、お礼状作成	講義・演習	
12	Ⅰ-(1)訪問介護実習 事前オリエンテーション（対象者） ※対象者以外は実習事前確認（学校登校）	講義・演習	
13	Ⅰ-(1)訪問介護実習 実習前の最終確認 報告会準備	講義・演習	

14	I - (1)事後学習 実習ファイル整理 I - (1) 訪問介護実習：振り返り 2. 報告会準備	提出④ 実習 I - (1) 自己評価	講義・演習
15	I - (1)事後学習 実習 I - (1)報告会準備		講義・演習
16	I - (1)事後学習 実習 I - (1)報告会準備		講義・演習
17	I - (1)事後学習 実習 I - (1)報告会		講義・演習
18	I - (1)事後学習 実習ファイル返却、実習 I - (2)の特徴と各書式の配布		講義・演習
19	I - (2)事前学習② 実習施設の理解（実習 I - (2)に向けて）、実習目標の確認 筆記試験に向けて	提出⑤ 実習 I - (2) 目標	講義・演習
20	I - (2)事前学習③ 筆記試験、カンファレンス用紙の書き方の確認		講義・演習
21	I - (2)事前学習④ カンファレンスの進め方、オリエンテーションの確認		講義・演習
22	I - (2) 事前オリエンテーション		講義・演習
23	I - (2)事前学習⑤ 実習前の最終確認		講義・演習
24	I - (2)登校日 実習ファイルの整理		講義・演習
25			講義・演習
26	I - (2)事後学習① 実習ファイルの整理	提出⑥ 実習 I - (2) 自己評価	講義・演習
27	I - (2)事後学習② I - (2)振り返り		講義・演習
28	介護福祉士に求められる知識（知識の補充、弱点補強など）①		講義・演習
29	介護福祉士に求められる知識（知識の補充、弱点補強など）②		講義・演習
30	介護福祉士に求められる知識（知識の補充、弱点補強など）③	提出⑦⑧ 課題	講義・演習
	テキスト・参考書	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 中央法規 その他配布資料（介護実習の手引き・様式集・記録用紙など） 【講義を受けるにあたって】 ①配布資料を保存できるファイルを購入すること ②黒のボールペンを使用するので購入すること（修正不可のもの） ③実習中はポケットサイズのメモ帳を使用するので購入すること ④7月に訪問介護実習を行うため、掃除、洗濯、調理の練習をしておくこと ⑤学校から配布された実習用ファイルは、2年間使用するため、なくさないこと	

科目名	20. 介護総合演習 II		
授業形態・単位数	演習60時間 (2単位)	開講学年	2 学年
担当講師	古川 太基	担当講師の実務経験の有無	有・無
担当講師の実務経験	6 年ほど障害者(児)や高齢者の介護を行ってきた。実習指導者講習会を修了し、実習に必要な指導方法や実習で求められる態度を理解している。実習を通して介護福祉士に必要な素養を育てていく。		
評価基準	筆記試験：30% 実技試験：40% 提出物：30% 出席点：減点方式 (欠席数 × -3点)		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各実習段階の意義・目的を理解し、より効果的な実習になるように準備を行う(知識の再確認・技術練習・介護過程の理解・記録の書き方など)。 ・実習での学びを整理し、介護福祉士としてのあり方を理解する。その中で自己の課題を見つけ出し、成長に繋げる。 ・実習報告会を通して他者の学びを聞き、視野や見識を広げる。 ・介護福祉士として人に伝える能力の向上を図る。 		
回	講義内容	方法	
1	オリエンテーション、実習ファイルの返却、実習 I - (3)の特徴と各書式の配布	講義	
2	I - (3) <u>実習事前学習</u> <u>実習目標の確認</u>	提出① 実習 I - (3) 目標	講義・演習
3	I - (3) <u>実習事前オリエンテーション</u>	講義・演習	
4	I - (3) <u>実習事前学習</u> 実習前の最終確認	講義・演習	
5	I - (3) 登校日 実習中の学びの整理 「アセスメント」について	講義・演習	
6			
7	I - (3) <u>事後学習</u> 実習後の学びの整理 (実習ファイルの整理)	講義・演習	
8			
9	I - (3) <u>事後学習</u> 1. I - (3)振り返り 2. <u>報告会準備</u>	提出② 実習 I - (3) 自己評価	講義・演習
10	I - (3) <u>事後学習</u> <u>報告会準備</u>	講義・演習	
11	I - (3) <u>事後学習</u> <u>報告会準備</u>	講義・演習	
12	I - (3) <u>事後学習</u> <u>実習報告会</u> ※パワーポイント資料を作成して、発表をする	講義・演習	
13			

14	I - (3) 事後学習 実習ファイル返却		講義・演習
15	II 実習事前学習 実習IIの特徴と各書式の配布 実習目標の確認	提出③ 実習II 目標	講義・演習
16	II 実習事前オリエンテーション		講義・演習
17	II 実習事前学習 実習前の最終確認		講義・演習
18	II 登校日① 実習中の学びの整理 「アセスメント」について		講義・演習
19			
20	II 登校日② 実習中の学びの整理 「介護計画の立案」について		講義・演習
21			
22	II 事後学習 実習後の学びの整理 「評価」実習ファイル整理		講義・演習
23			
24	II 事後学習 1. II 振り返り 2. 報告会準備	提出④ 実習II自己評価	講義・演習
25	II 事後学習 報告会準備		講義・演習
26	II 事後学習 報告会準備		講義・演習
27	II 事後学習 実習報告会 ※パワーポイント資料を作成して、発表をする		講義・演習
28			
29	振り返り、筆記試験に向けて（国家試験に向けて：総合問題）	提出⑤ 介護の展望等	講義
30	筆記試験		試験
テキスト・参考書		<p>最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 中央法規 最新 介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規 介護実習の手引き・記録用紙・その他配布資料</p> <p>【講義を受けるにあたって】 1年次に用意した物品を継続して使用すること。 （実習ファイル、保存用ファイル、消せないボールペン【黒】、 メモ帳、印鑑など）</p>	

科目名	21. 介護実習Ⅰ - (1)		
授業形態・単位数	実習45時間・1単位	開講学年	1学年 前期
担当講師	古川太基・深澤みはる 戸丸美智子・高山早苗 小林美夕紀・魚屋真佐江	担当講師の実務経験の有無	有・無
担当講師の実務経験	介護施設等での勤務経験を活かし、学校で学習した内容と実習施設で学び得たものなどのように関連があるのかを指導する。		
評価基準	①施設指導者による評価40%：介護実習Ⅰ - (1) 評価表20項目（通所・訪問） ②教員による評価60%：施設概要、実習記録、実習態度等の評価 ※それぞれの評価を総合し、最終評価とする。 ※最終評価が60%未満は再実習とする。		
目的・目標	<p>【通所実習の目的】 通所施設の特徴と職員の役割又、施設利用者の特徴と援助内容、利用者や家族に対してどのような援助が行われているのか、見学及び体験を通して学ぶ。</p> <p>【通所実習の到達目標】 ①通所施設利用者の生活を知ることができる。 ②施設の特徴を学ぶ。 ③多職種協働について理解する。 ④実習生らしい態度や身だしなみで実習を行うことができる。</p> <p>【訪問介護実習の目的】 居宅介護サービス事業を利用している対象利用者の特徴と援助内容や地域における訪問介護の役割について、見学及び体験を通して学ぶ。</p> <p>【訪問介護実習の到達目標】 ①訪問介護員の業務内容について学び、利用者の生活を支えるためにどのような援助を行っていくのか理解する。 ②在宅での生活を継続するための社会資源や地域とのつながりを理解する。 ③在宅で生活を送るための環境整備、個々に応じた援助がどのように展開されているのか理解する。</p>		
備考	○実習の手引き・要項を参照のこと。 ○実習期間 通所介護実習：4日間 訪問介護実習：2日間 ※訪問介護実習に参加できない学生は、通所実習を2日間行う。 ○実習時間：原則8：30～17：30（8時間）		

科目名	22. 介護実習Ⅰ - (2)		
授業形態・単位数	実習90時間・2単位	開講学年	1 学年 後期
担当講師	古川太基・深澤みはる 戸丸美智子・高山早苗 小林美夕紀・魚屋真佐江	担当講師の実務経験の有無	有・無
担当講師の実務経験	介護施設等での勤務経験を活かし、学校で学習した内容と実習施設で学び得たものがどのように関連があるのかを指導する。		
評価基準	①施設指導者による評価40%：介護実習Ⅰ - (2) 評価表15項目 ②教員による評価60%：実習記録、まとめ、実習態度等の評価 ※それぞれの評価を総合し、最終評価とする。 ※最終評価が60%未満は再実習とする。		
目的・目標	<p>【目的】 様々な施設で生活している利用者の特徴とその利用者や家族に対してどのような援助が行われているのか、見学および体験を通して学ぶ。実習を通じて、時間の厳守、適切な挨拶、身だしなみ、言葉遣いなど一般社会人となるためのマナーを身につける。</p> <p>【到達目標】 ①施設利用者がどのような日常生活を過ごしているのか利用者の生活を知ることができる。 ②施設の概要、機能や役割について知る。 ③様々な職種が施設で働いていることを知る。 ④実習生らしい言葉遣いや身だしなみで実習を行うことができる。</p>		
備考	○実習の手引き・要項を参照のこと。 ○実習期間：12日間 ※土・日・祝日を除く ○実習時間：原則8：30～17：30（8時間）		

科目名	23. 介護実習Ⅰ - (3)		
授業形態・単位数	実習135時間・3単位	開講学年	2 学年 前期
担当講師	古川太基・深澤みはる 戸丸美智子・高山早苗 小林美夕紀・魚屋真佐江	担当講師の実務経験の有無	有・無
担当講師の実務経験	介護施設等での勤務経験を活かし、介護過程を展開し担当利用者の生活課題を導き出せるよう指導を行う。		
評価基準	①施設指導者による評価 40%：介護実習Ⅰ - (3) 評価表 20項目 ②教員による評価 60%：実習記録、カンファレンス内容、実習態度等の評価 ※それぞれの評価を総合し、最終評価とする。 ※最終評価が60%未満は再実習とする。		
目的・目標	<p>【目的】 学内やこれまでの実習での学びを基に、施設利用者個々の状態に応じた援助方法について学びを深める。介護過程の展開を通して利用者理解の方法やニーズの捉え方などを学び、より具体的な援助とは何かを理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①介護過程の展開を通して利用者のニーズを捉え、問題点を抽出し、課題をあげることができる。</p> <p>②記録の種類や重要性について理解することができる。</p> <p>③実習指導者の下で、基本的な介護技術を高め、個別援助と自立支援の視点を理解する。</p>		
備考	<p>○実習の手引き・要項を参照のこと。</p> <p>○実習期間：17日間 ※土・日・祝日を除く</p> <p>○実習時間：原則8：30～17：30（8時間）</p>		

科目名	24. 介護実習Ⅱ		
授業形態・単位数	実習180時間・4単位	開講学年	2学年 後期
担当講師	古川太基・深澤みはる 戸丸美智子・高山早苗 小林美夕紀・魚屋真佐江	担当講師の実務経験の有無	有・無
担当講師の実務経験	介護施設等での勤務経験を活かし、介護過程を展開し担当利用者の生活課題を導き出し、介護計画を立案し、介護の実施ができるよう指導を行う。		
評価基準	①実習指導者による評価 40%：介護実習Ⅱ評価表25項目 ②教員による評価 60%：実習記録、カンファレンス内容、実習態度等の評価 ※それぞれの評価を総合し、最終評価とする。 ※最終評価が60%未満は再実習とする。		
目的・目標	<p>【目的】 特定の利用者についてのニーズを把握するために、情報収集・アセスメントを行い、介護計画の立案・実施・評価の一連の介護過程を学ぶ。その展開の中で他職種との連携・協働について学び、また利用者本位の介護とは何か、介護福祉士ができることは何かを学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ①特定の利用者を対象に介護過程を展開し、利用者理解に必要な能力を養う。 ②個別援助を行うために必要なことは何かを学ぶ。 ③介護過程の展開の中で他職種の役割とそれぞれの専門性について学び、施設利用者のニーズに沿った援助を行うために、どのように連携を図っているかを学ぶ。 ④総合的な援助のために必要な知識や技術の再確認をし、より多くのことを学ぶとる。</p>		
備考	○実習の手引きを参照のこと。 ○実習期間：23日間 ※土・日・祝日を除く ○実習時間：原則8：30～17：30（8時間）		

科目名	25. 発達と老化の理解		
授業形態・単位数	講義30時間・2単位	開講学年	2学年 前期
担当講師	垣上正裕/深澤みはる	担当講師の実務経験の有無	有・無
担当講師の実務経験	幼児期から老年期の健康問題をもつ様々な発達段階にある対象に対する看護実践経験を有する。		
評価基準	筆記試験100% (垣上80% 深澤20%)		
目標	<p>①発達の概念および、発達に影響する要因の学習を通じ、人間のライフサイクルにおける生涯発達を概観する。</p> <p>②人間の生涯発達の過程の学習を通じ、健康の概念を理解する。</p> <p>③老年期における形態・機能的特徴を学習し、老年期の対象の形態・機能的側面を理解する。</p> <p>④老年期における心理・社会的特徴を学習し、老年期の対象の心理・社会的側面を理解する。</p> <p>⑤老年期における健全な発達を阻害する因子について学習し、老年期の対象が健全な発達過程を送るために必要な身体的・心理的社会的支援の重要性を理解する。</p>		
回	講義内容	方法	
1	<u>発達とは</u> 一生涯発達という考え方を学ぶ一	講義	
2	<u>生涯発達と健康</u> 一生涯発達の視点から健康とは何かについて考える一	講義	
3	<u>発達段階とは</u> 一人間の一生を各期にわけて検討する考え方を学ぶ一	講義	
4	<u>発達課題とは</u> 一誕生から死までの間に変化する人間の心理・社会的発達一	講義	
5	<u>発達と個別性</u> 一人間の生涯発達に影響する因子について考える一	講義	
6	<u>発達と死</u> 一生涯発達の視点から死に対する受容について考える一	講義	
7	<u>老年期の認知の特徴</u> 一精神機能と生活のつながりについて考える一	講義	
8	<u>老年期の精神機能の特徴</u> 一精神機能と生活のつながりについて考える一	講義	
9	<u>老年期の心理の特徴</u> 一老年期の心理の特徴から生きがいや健康、死について考える	講義	
10	<u>老年期のこころの健康問題①</u> 一老年期に起こりうるこころの健康問題	講義	
11	<u>老年期のこころの健康問題②</u> 一認知症によってもたらされる生活上の困難と支援一	講義	
12	<u>老年期の発達と健康問題の概観</u> 一これまでの学習内容を概観し老年期の対象への理解を深める一	講義	
13	まとめ①	講義 (深澤)	
14	まとめ②	講義 (深澤)	
15	試験	試験	
テキスト・参考書	最新・介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 中央法規 配付資料		

科目名		26. 高齢者の健康		
授業形態・単位数		講義30時間・2単位	開講学年	1学年 後期
担当講師		関 妙子	担当講師の実務経験の有無	○有 ・ 無
担当講師の実務経験		急性期看護（脳神経外科他）・訪問看護（管理者）・看護管理者（看護部長）としての臨床経験を経て、看護大学の准教授として老年看護学を担当した。現在、訪問看護ステーションの管理者として在宅看護に従事している。		
評価基準		筆記試験100%		
目標		<p>1. 高齢者の健康を高齢期に特徴的な体の変化をはじめ、疾病や傷害、及び家族や社会的環境との関係から総合的に考えることができる。</p> <p>2. 高齢者の健康を維持・推進するために、有効な支援の内容や方法、保険医療職との協働活動のあり方について理解できる。</p>		
回	講義内容			方法
1	老化にともなう身体的な変化と生活への影響			講義
2	①加齢による生理機能の全体的低下 ②身体的機能の低下と日常生活への影響			
3	老化にともなう心理的な変化と生活への影響			講義
4	①認知機能の変化 ②知的機能の変化と心理的影響 ③パーソナリティ（性格）の変化 ④老化と動機づけ・適応			
5	老化にともなう社会的な変化と生活への影響			講義
6	①社会の中での生活上の課題 ②高齢者の社会的活動の現状と課題 ③社会における老化理論			
7	高齢者と健康 ①高齢者の健康 ②高齢者に多い症状・疾患の特徴			講義
8	高齢者と健康 ③高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（骨格系・筋系）			講義
9	高齢者と健康 ④高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（脳・神経系、皮膚・感覚器系）			講義
10	高齢者と健康 ⑤高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（循環器系、呼吸器系）			講義
11	高齢者と健康 ⑥高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（消化器系、腎・泌尿器系）			講義
12	高齢者と健康 ⑦高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（内分泌・代謝系、歯・口腔疾患）			講義
13	高齢者と健康 ⑧高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（悪性新生物、感染症、精神疾患）			講義
14	高齢者と健康 ⑨高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（その他） ⑩多職種連携			講義
15	筆記試験			試験
テキスト・参考書		最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 中央法規		

科目名	27. 認知症の理解 I		
授業形態・単位数	講義 30 時間・2 単位	開講学年	1 学年・後期
担当講師	深澤 みはる	担当講師の実務経験の有無	有・無
担当講師の実務経験	介護施設や医療機関での経験を踏まえ、認知症に関する医学的知識をもとに学習を進めていく		
評価基準	筆記試験 (100%)		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の人を取り巻く状況を知り、介護の必要性を理解する。 ・ 認知症の人にかかわる上で必要な医学的知識を理解する。 ・ 認知症の人の生活理解と介護者の役割について理解する。 		
回	講義内容	方法	
1	認知症を理解するための導入 <u>認知症とは</u>	講義	
2	<u>認知症の人の心理・脳のしくみ</u>	講義	
3	<u>認知症の症状・診断①</u> (中核症状)	講義	
4	<u>認知症の症状・診断②</u> (生活障害)	講義	
5	<u>認知症の症状・診断③</u> (BPSD①)	講義	
6	<u>認知症の症状・診断④</u> (BPSD②)	講義	
7	<u>認知症の原因疾患①</u> (診断と重症度)	講義	
8	<u>認知症の原因疾患②</u> (原因疾患と症状・生活障害①)	講義	
9	<u>認知症の原因疾患③</u> (原因疾患と症状・生活障害②)	講義	
10	<u>認知症の治療・認知症の予防①</u>	講義	
11	<u>認知症の治療・認知症の予防②</u>	講義	
12	認知症ケアの歴史と理念	講義	
13	認知症の人とのかかわりを考える	講義	
14	まとめ	講義	
15	定期試験	試験	
テキスト・参考書	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解 中央法規		

科目名	28. 認知症の理解 II		
授業形態・単位数	講義30時間・2単位	開講学年	2学年 前期
担当講師	深澤 みはる	担当講師の実務経験の有無	有・無
担当講師の実務経験	施設での経験を活かし、認知症の人のニーズを考え、ケアに反映できるような知識と技術を伝える。		
評価基準	定期試験 100%		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人への具体的なケア方法を理解する ・家族介護者を支える介護福祉職の役割を理解する ・認知症の人が地域で暮らすために必要な多職種連携と協働について学習する。 		
回	講義内容	方法	
1	認知症ケアの実際① パーソン・センタード・ケア	講義	
2	認知症ケアの実際② コミュニケーションとケア	講義	
3	認知症ケアの実際③ さまざまなアプローチ	講義	
4	認知症ケアの実際④ 終末期医療と介護・環境づくり	講義	
5	介護者支援 家族への支援・介護福祉職への支援	講義	
6	認知症の人の地域生活支援 地域包括ケアシステム・多職種連携と協働	講義	
7	国家試験対策①	講義	
8	国家試験対策②	講義	
9	国家試験対策③	講義	
10	国家試験対策④	講義	
11	国家試験対策⑤	講義	
12	国家試験対策⑥	講義	
13	国家試験対策⑦	講義	
14	国家試験対策⑧	講義	
15	定期試験	試験	
テキスト・参考書	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解 中央法規		

科目名	29. 障害の理解		
授業形態・単位数	講義 60時間 4単位	開講学年	1学年 通年
担当講師	①前川由美子（第1～12回） ②藤井友和（第13～18回） ③高草木めぐ美（第19～30回）	担当講師の実務経験の有無	○有 ・ 無
担当講師の実務経験	<p>①知的障害者支援事業所に在籍。障害者への直接処遇支援及びサービス管理を主な業務としている。障害者福祉の現状から障害の理解や支援の視点を習得できるように講じる。</p> <p>②20年以上、高齢者を始め、様々な疾患や身体障害のある方に対して、身体介護を行ってきた。これらの経験から障害別の基礎的理解と特性に応じた支援方法を指導する。</p> <p>③小児科病棟・急性期病棟などでの障害受容に向けた支援、療養病棟・介護老人保健施設での障害受容後の支援の実際を踏まえ、障害のある人の理解について学習を深めていく。</p>		
評価基準	<p>①筆記試験、その他課題の提出状況など ※計40%</p> <p>②筆記試験 ※20%</p> <p>③筆記試験（定期試験、その他課題の提出状況など） ※40%</p> <p>※総合評価：①+②+③=100%で評価となる</p>		
目標	<p>【第1～12回】 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。</p> <p>【第13～18回】 ・障害別の特性に応じた意思表示やコミュニケーション方法を理解する ・医療福祉サービスを含む様々な社会資源を使った支援を理解する</p> <p>【第19～30回】 ①それぞれの障害種別ごとの身体的・心理的側面をふまえた生活とそれに応じた支援を理解する。 ②障害のある人の自立に向けた生活支援の視点を広げ、対象の生活を理解する。</p>		
回	講義内容		方法
1	レポート／障害者施設の紹介	(前川)	講義
2	障害の概念	(前川)	講義
3	障害の概念	(前川)	講義
4	障害の基本理念	(前川)	講義
5	障害者支援の基本的視点	(前川)	講義
6	障害者支援の基本的視点	(前川)	講義
7	障害を持つ人の生きづらさ	(前川)	講義
8	まとめ①	(前川)	講義
9	まとめ①・定期試験①	(前川)	講義・試験

10	サポート体制	(前川)	講義
11	家族への支援	(前川)	講義
12	まとめ②・定期試験②	(前川)	講義・試験
13	知的障害の理解	(藤井)	講義
14	精神障害の理解	(藤井)	講義
15	高次脳機能障害の理解	(藤井)	講義
16	発達障害の理解	(藤井)	講義
17	難病の理解	(藤井)	講義
18	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援方法まとめ	(藤井)	筆記試験
19	障害のある人の心理 障害受容の過程	(高草木)	講義
20	肢体不自由 運動機能障害・身体的特徴の理解①・心理的特徴の理解②	(高草木)	講義
21	視覚障害とは 障害の特性の理解	(高草木)	講義
22	聴覚・言語障害とは	(高草木)	講義
23	重複障害とは 障害児への支援	(高草木)	講義
24	内部障害 心臓機能障害、呼吸器機能障害	(高草木)	講義
25	内部障害 腎臓機能障害、膀胱・直腸機能障害、小腸機能障害	(高草木)	講義
26	内部障害 ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害、肝機能障害	(高草木)	講義
27	重症心身障害とは 障害に応じた支援	(高草木)	講義
28	まとめ①	(高草木)	講義
29	まとめ②	(高草木)	講義
30	定期試験	(高草木)	試験
テキスト・参考書		最新・介護福祉士養成講座14 障害の理解 中央法規	

科目名	30. こころとからだのしくみⅠ		
授業形態・単位数	講義60時間・4単位	開講学年	1学年 通年
担当講師	高山 早苗	担当講師の実務経験の有無	有・無
担当講師の実務経験	高齢者施設での看護業務経験をもとに介護現場で活かせるような知識を学べる授業を行う		
評価基準	筆記試験（中間試験・定期試験・授業態度） 100%		
目標	①介護実践のために必要な人体の構造と機能について理解する ②心理的变化による身体の反応を知り、介護の必要性を理解する		
回	講義内容	方法	
1	<u>「健康」とは何か</u>	講義	
2	<u>人間の欲求の基礎的理解</u> マズローの欲求段階とは	講義	
3	<u>こころのしくみの基礎</u> ① 脳のしくみ	講義	
4	<u>こころのしくみの基礎</u> ② 学習・記憶・思考のしくみ	講義	
5	<u>からだのしくみ</u> ① 身体各部の名称、骨・筋肉	講義	
6	<u>からだのしくみ</u> ② 筋肉の動き 関節の動き	講義	
7	<u>からだのしくみ</u> ③ 中枢神経 末梢神経	講義	
8	<u>からだのしくみ</u> ④ 感覚器（目・鼻・耳・味覚器・皮膚）	講義	
9	薬の知識 服薬の介助	講義	
10	薬の知識 点眼・座薬・浣腸	講義	
11	<u>からだのしくみ</u> ⑤ 内臓の名称、呼吸器・循環器（心臓・血液の流れ）	講義	
12	<u>からだのしくみ</u> ⑥ 消化器 消化と吸収（胃・小腸・大腸）	講義	
13	<u>からだのしくみ</u> ⑦ 消化器（肝臓・胆のう・脾臓）	講義	
14	<u>からだのしくみ</u> 振り返り	講義	

15	中間試験	試験
16	<u>からだのしくみ</u> ⑧ 泌尿器（腎臓）・生殖器・内分泌	講義
17	<u>からだのしくみ</u> ⑨ 血液・免疫・体液・リンパ	講義
18	<u>からだのしくみ</u> ⑩ 爪・毛髪・口腔・歯の構造と機能	講義
19	<u>からだのしくみ</u> 振り返り	講義
20	生命維持と恒常性のしくみ	講義
21	褥瘡	講義
22	介護福祉職の行える範囲の処置	講義
23	ストーマ・尿道カテーテルの管理の方法①	講義
24	ストーマ・尿道カテーテルの管理の方法②	講義
25	体液とは	講義
26	自律神経を考える	講義
27	終末期の関わり①	講義
28	終末期の関わり②	講義
29	まとめ	講義
30	定期試験	試験
	テキスト・参考書	最新・介護福祉士養成講座11 ことろとからだのしくみ 中央法規

科目名	31. こころとからだのしくみⅡ		
授業形態・単位数	講義60時間・4単位	開講学年	2年生 通年
担当講師	高山 早苗	担当講師の実務経験の有無	○有・無
担当講師の実務経験	高齢者施設での看護業務経験をもとに介護現場で活かせるような知識を学べる授業を行う		
評価基準	筆記試験（中間試験・定期試験・授業態度）100%		
目標	①介護実践の根拠となる、人体の機能及び介護サービスの提供における安全の配慮について理解する ②生活支援に必要な心身の変化について基礎的知識を身につける		
回	講義内容	方法	
1	<u>移動のしくみ</u>	講義	
2	<u>心身の機能低下が移動に及ぼす影響</u>	講義	
3	<u>身じたくのしくみ</u>	講義	
4	<u>心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響</u>	講義	
5	<u>食事のしくみ</u>	講義	
6	<u>心身の機能低下が食事に及ぼす影響</u>	講義	
7	<u>入浴・清潔保持のしくみ</u>	講義	
8	<u>心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響</u>	講義	
9	<u>排泄のしくみ</u>	講義	
10	<u>心身の機能低下が排泄に及ぼす影響</u>	講義	
11	<u>休息・睡眠のしくみ</u>	講義	
12	<u>心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響</u>	講義	
13	<u>人生の最終段階のケアに関する「死」のとりえ方</u>	講義	
14	<u>終末期における医療職との連携 介護職の役割 看取ることとは</u> まとめ	講義	

15	中間試験	講義・試験
16	記憶と気持ち①	講義
17	記憶と気持ち②	講義
18	呼吸器・循環器疾患と症状	講義
19	腎・泌尿器・消化器疾患と症状	講義
20	運動器疾患・筋疾患と症状	講義
21	学力評価試験・国家試験対策①	講義
22	学力評価試験・国家試験対策②	講義
23	学力評価試験・国家試験対策③	講義
24	まとめ①	講義
25	まとめ②	講義
26	まとめ③	講義
27	冠婚葬祭について	講義
28	防衛機制について	講義
29	ハンドケア	講義
30	定期試験	試験
	テキスト・参考書	最新・介護福祉士養成講座11 ころとからだのしくみ 中央法規

科目名	32. 医療的ケア I		
授業形態・単位数	講義30時間・2単位	開講学年	1学年 前期
担当講師	深澤 みはる 高山 早苗	担当講師の実務経験の有無	有・無
担当講師の実務経験	病院での経験を活かし、バイタルサインの意味や必要性を理解し、利用者の健康管理ができるような知識と技術を伝える。		
評価基準	筆記試験（70点）・レポート課題等（30点）		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の場における医療的ケアについて理解する。 ・健康管理の必要性和健康管理に必要な技術を学ぶ。 ・普通救急講習を通して、救急時の対応ができるように知識・技術を広げる。特に、一次救急処置（心肺蘇生法・AEDを用いた除細動）の標準的な実技を実施できる。消防署の普通救命士の資格を取得する。 		
回	講義内容	方法	
1	医療的ケアとは（医療的ケアとは バイタルサインとは）	講義	
2	健康チェックとアセスメント①（体温測定）	講義・演習	
3	健康チェックとアセスメント②（脈拍測定）	講義・演習	
4	健康チェックとアセスメント③（血圧測定）	講義・演習	
5	健康チェックとアセスメント④（動脈血酸素飽和度測定）	講義・演習	
6	バイタルサインの測定	講義・演習	
7	口腔ケアを必要とする利用者への援助①（誤嚥とそのリスク）	講義・演習	
8	口腔ケアを必要とする利用者への援助②（口腔ケア援助方法）	講義・演習	
9	医療的ケアとは（喀痰吸引等制度・その他の制度）	講義	
10	安全な療養生活（喀たん吸引や経管栄養の安全な実施）	講義	
11	清潔保持と感染予防（感染予防・消毒と滅菌）	講義	
12	健康状態の把握（バイタルサイン・急変状態について）	講義	
13	筆記試験	試験	
14	一次救命処置①（AEDの使用の仕方・傷病者の観察他）	講義・演習	
15	一次救命処置②（AEDの使用の仕方・傷病者の観察他）	講義・演習	
テキスト・参考書	最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア 中央法規 配布資料		

科目名		33. 医療的ケア II		
授業形態・単位数		講義60時間・4単位	開講学年	1学年 後期
担当講師		深澤 みはる 高山 早苗	担当講師の実務経験の有無	○有・無
担当講師の実務経験		病院での経験を活かし、医療的ケアの意味や必要性を理解できるように、基本的な知識と技術を伝える。		
評価基準		筆記試験（50％） 実技試験（50％）		
目標		<ul style="list-style-type: none"> ・医療職と連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する ・介護の場における医療的ケアの必要性を理解する 		
回	講義内容			方法
1	高齢者および障害児・者喀痰吸引概論① 喀痰吸引とは			講義
2	高齢者および障害児・者喀痰吸引概論② 人工呼吸療法の場合の吸引・子どもの吸引について			講義
3	高齢者および障害児・者喀痰吸引概論③ 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意			講義
4	高齢者および障害児・者喀痰吸引概論④ 呼吸器系の感染と予防（吸引と関連して）			講義
5	高齢者および障害児・者喀痰吸引概論⑤ 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認			講義
6	高齢者および障害児・者喀痰吸引概論⑥ 急変・事故発生時の対応と事前対策			講義
7	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順① 喀痰吸引で用いる器具・機材とそのしくみ、清潔保持			講義
8	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順② 口腔内吸引・鼻腔内吸引の技術と留意点 1			講義
9	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順③ 口腔内吸引・鼻腔内吸引の技術と留意点 2			講義・演習
10	口腔内吸引の手順・手技 1			講義・演習
11	口腔内吸引の手順・手技 2			講義・演習
12	口腔内吸引の手順・手技 3			講義・演習
13	鼻腔内吸引の手順・手技 1			講義・演習
14	鼻腔内吸引の手順・手技 2			講義・演習
15	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順④ 気管カニューレ内吸引の技術と留意点 1			講義

16	気管カニューレ内部吸引の手順・手技1	講義・演習
17	気管カニューレ内部吸引の手順・手技2	講義・演習
18	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順⑤ 気管カニューレ内吸引の技術と留意点2	講義
19	口腔・鼻腔・気管カニューレからの吸引 まとめ1	講義・演習
20	口腔・鼻腔・気管カニューレからの吸引 まとめ2	講義・演習
21	口腔・鼻腔・気管カニューレからの吸引 まとめ3	講義・演習
22	口腔・鼻腔・気管カニューレからの吸引 まとめ4	講義・演習
23	実技試験（口腔・鼻腔・気管カニューレからの吸引）	演習
24	実技試験（口腔・鼻腔・気管カニューレからの吸引）	演習
25	実技試験（口腔・鼻腔・気管カニューレからの吸引）	演習
26	実技試験（口腔・鼻腔・気管カニューレからの吸引）	演習
27	高齢者および障害児・者の経管栄養概論① 消化・吸収とよくある消化器の症状	講義
28	高齢者および障害児・者の経管栄養概論② 経管栄養法とは・注入する栄養剤に関する知識・経管栄養実施上の留意点	講義
29	高齢者および障害児・者の経管栄養概論③ 経管栄養により生じる危険 注入後の安全確認、急変・事故発生時の対策と事前対策	講義
30	まとめ（テスト）	講義
テキスト・参考書		最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア 中央法規 配布資料

科目名	34. 医療的ケアⅢ		
授業形態・単位数	演習30時間・1単位	開講学年	2学年 前期
担当講師	深澤 みはる 高山 早苗	担当講師の実務経験の有無	有・無
担当講師の実務経験	病院での経験を活かし、専門職との連携の重要性を伝え、安全に医療的ケアが実施できるように、基本的な知識と技術を指導する。		
評価基準	演習 実技試験		
目標	利用者の安全に配慮した、喀たん吸引及び経管栄養の技術を正しく習得することができる。 (口腔内吸引・鼻腔内吸引・気管内吸引・経鼻経管栄養・胃ろう腸ろう経管栄養)		
回	講義内容	方法	
1	<u>口腔内吸引の手順・手技</u> まとめ1	演習	
2	<u>鼻腔内吸引の手順・手技</u> まとめ2	演習	
3	<u>気管カニューレ内吸引の手順・手技</u> まとめ1	演習	
4	<u>気管カニューレ内吸引の手順・手技</u> まとめ2	演習	
5	<u>経鼻経管栄養の手技・手順</u> まとめ	演習	
6	<u>胃ろう・腸ろう経管栄養の手技・手順</u> まとめ	演習	
7	オリエンテーション (実技試験について)	演習	
8	<u>実技試験 (口腔・鼻腔・気管カニューレからの吸引)</u>	試験	
9	<u>実技試験 (口腔・鼻腔・気管カニューレからの吸引)</u>	試験	
10	<u>実技試験 (口腔・鼻腔・気管カニューレからの吸引)</u>	試験	
11	<u>実技試験 (口腔・鼻腔・気管カニューレからの吸引)</u>	試験	
12	<u>実技試験 (経鼻・胃ろう・腸ろうによる経管栄養)</u>	試験	
13	<u>実技試験 (経鼻・胃ろう・腸ろうによる経管栄養)</u>	試験	
14	<u>実技試験 (経鼻・胃ろう・腸ろうによる経管栄養)</u>	試験	
15	<u>実技試験 (経鼻・胃ろう・腸ろうによる経管栄養)</u>	試験	
テキスト・参考書	最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア 中央法規 配布資料		

科目名	35. 医療的ケア実習		
授業形態・単位数	実習45時間・1単位	開講学年	2学年 通年 (選択科目)
担当講師	深澤みはる	担当講師の実務経験の有無	有・無
担当講師の実務経験	病院等での勤務経験を活かし、安全・安楽に医療的ケアが実施できるように指導する。		
評価基準	施設指導者による評価、及び巡回指導の教員評価		
目的・目標	<p>【医療的ケア実習の目的】</p> <p>平成24年4月1日改正「社会福祉士及び介護福祉士法」に基づき、喀痰吸引等の医療的ケアを必要とする利用者に対し、より安全で安定的なケアを提供するため、適切に当該ケアを行える介護福祉士を養成することを目的とする。</p> <p>【医療的ケア実習の到達目標】</p> <p>学生が、指導看護師の指導を受けながら、利用者の心身の状態を正確に観察し、指導看護師と連携し医師に報告し、その指示に基づいて、医療的ケアを安全かつ効果的に実施できる。</p>		
備考	<p>【医療的ケア実習期間】</p> <p>実習期間 指定された2日間および4日間 全6日間 実習時間 原則8：30～17：30（1日8時間）</p> <p>医療的ケア実習を行う時間以外は、介護技術の向上を図るために、利用者支援の時間に当てる。多種職協働とチームケアについて、医療職と介護職との連携や報告方法等においても積極的に学ぶ機会とする。</p> <p>[実地研修・項目]</p> <p>喀痰吸引</p> <p>① 口腔内吸引 10回以上 ② 鼻空内吸引 20回以上 ③ 気管カニューレ内部 20回以上</p> <p>経管栄養</p> <p>④ 胃ろうまたは腸ろう 20回以上 ⑤ 経鼻 20回以上</p> <p>* 以上の項目の内、実習施設及び病院等の実習先において、①と②のみの実施を行う。</p> <p>* また、学内で行った研修の回数は、実施研修の回数に含まれない。</p>		

科目名		36. 特別講座 I		
授業形態・単位数		講義60時間・4単位	開講学年	1学年・通年
担当講師		小林美夕紀	担当講師の実務経験の有無	有・無
担当講師の実務経験		高齢者施設での現場経験で得た様々な人との関わりから、協調性・コミュニケーション能力を高めるための技術を伝える。		
評価基準		出席状況等		
目標		<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校生活を円滑に送れるよう、授業の内容や学則等の理解を深める。 ○ 行事等を通し、協調性やコミュニケーション能力を高め、豊かな感性を養う。 ○ 就職に向けての準備を進めるにあたり、必要な情報や知識を得る。 ○ 留学生と日本人学生が共に学びあうことで学習効果を高める。 		
回	講義内容			方法
1	学事予定（オリエンテーション①）			講義・演習
2	学事予定（オリエンテーション②）			講義・演習
3	学事予定（オリエンテーション③）			講義・演習
4	学事予定（オリエンテーション④）			講義・演習
5	学事予定（オリエンテーション⑤）			講義・演習
6	学事予定（オリエンテーション⑥）			講義・演習
7	学事予定 / 健康診断			健康診断
8				
9				
10	4月ホームルーム			講義・演習
11	5月ホームルーム			講義・演習
12	6月ホームルーム			講義・演習
13	7月ホームルーム / 夏休みに向けて			講義・演習
14	8月ホームルーム			講義・演習
15	9月ホームルーム / 防災訓練			講義・演習
16	10月ホームルーム			講義・演習

17	11月ホームルーム	講義・演習
18	学事予定（PAZ祭準備など①）	文化祭
19	学事予定（PAZ祭準備など②）	文化祭
20	学事予定（PAZ祭準備など③）	文化祭
21	学事予定（PAZ祭準備など④）	文化祭
22	学事予定PAZ祭	文化祭
23	学事予定PAZ祭	文化祭
24	学事予定PAZ祭	文化祭
25	学事予定PAZ祭	文化祭
26	12月ホームルーム / 冬休みにむけて	講義・演習
27	1月ホームルーム	講義・演習
28	2月ホームルーム	講義・演習
29	国試チャレンジ（腕試しテスト）	講義・演習
30	国試チャレンジ（腕試しテスト）	講義・演習
	テキスト・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ○ テキストは特に使用せず、必要に応じて資料を配布する。 ○ 学校行事に関連する内容については、内容をきちんと確認し積極的に取り組むこと。 ○ 他の科目の学習の進捗状況によっては、内容及び実施時期が変更となる可能性あり。

科目名	37. 特別講座 II		
授業形態・単位数	講義60時間・4単位	開講学年	2学年 通年
担当講師	深澤みはる	担当講師の実務経験の有無	有・無
担当講師の実務経験			
評価基準	学力評価試験100% (125点×0.8)		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校生活を円滑に送れるよう、授業の内容や学則等の理解を深める。 ・ 行事等を通し、協調性やコミュニケーション能力を高め、豊かな感性を養う。 ・ 就職に向けての準備を進めるにあたり、必要な情報や知識を得る。 ・ 留学生と日本人学生が共に学びあえるような学習効果を高める。 		
回	講義内容	方法	
1	学事予定 (オリエンテーション①)	講義	
2	学事予定 (オリエンテーション②)	講義	
3	校内・模擬試験 (第1回)	試験	
4	校内・模擬試験 (第1回)	試験	
5	ホームルーム (クラス運営に関する状況確認)	講義	
6	ホームルーム (クラス運営に関する状況確認)	講義	
7	校内・模擬試験 (第2回)	試験	
8	校内・模擬試験 (第2回)	試験	
9	ホームルーム (夏休みに向けての諸注意) 第1回全国模擬試験	講義・試験	
10	第1回全国模擬試験	試験	
11	ホームルーム (PAZ祭のグループ分け) ※8月	講義	
12	ホームルーム (PAZ祭の企画) ※10月	講義	
13	第2回全国模擬試験	試験	
14	第2回全国模擬試験	試験	

15	ホームルーム（PAZ祭の企画） ※11月	講義
16	ホームルーム（クラス運営での確認事項）	講義
17	学力評価試験	試験
18	学力評価試験	試験
19	学事予定（PAZ祭準備など）	文化祭
20	学事予定（PAZ祭準備など）	文化祭
21	学事予定（PAZ祭準備など）	文化祭
22	学事予定（PAZ祭準備など）	文化祭
23	学事予定（PAZ祭）	文化祭
24	学事予定（PAZ祭）	文化祭
25	学事予定（PAZ祭）	文化祭
26	学事予定（PAZ祭）	文化祭
27	ホームルーム（冬休みにむけて）	講義
28	ホームルーム ※1月	講義
29	ホームルーム ※2月	講義
30	ホームルーム ※3月	講義
	テキスト・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて資料配布。 ・行事に関連する事柄においては内容をきちんと確認し、積極的に取り組むこと。 ・学習の進捗状況により、内容及び実施時期が変更になることもある。